文化九一華春

特別
へ 13
3633
50

柏清
高

客衣叙

客衣ハ華衣ニ対シテ名ヅクル所ノ天ノ下窓ト情乃二表ヒ物ヒテ斯書ノ衣著ハ裏ハ歩ノ通用物淫華ノ天色ハ以テ腐次シテ洪客ノ衿肩ヨ着ハ襟像モ小利ノ形ヨ肖ヘ贖フル客ハ自ら

特
門 へ 13
3633
巻 50
昭和三十二年六月八日
宮川芙象氏寄贈

軀幹窪し虚と縁を牛るの
若のう均しくたなはこうびよ懸く
擡脊屑く絶くたつりの八借金と糶
服の風呂敷とやいん一吐の亂し
を獨孤乃ごく真紋で首乃
メくるを綾のる緯経八ごとる

撤収八ちんばいつぶ禁して
帳下はぬ舟となるば
彼乃川柳る所謂居候
おくるのの餅を食ふ寝る
身を持つのる第八禍と日れ
ぐ大事なるぶや嗚呼お

そしり行末ハ朱丸塗る
の為縫うと寄裂といふ
紐く智恵の輪を鎖りた
丸ん鼻毛の尺長をとりく
情なしよ足し繋合せく
急ぎ正月公物と親戚ハ

衣裳持一乃華表と御制
を採うん事成

御そんじ持一座

關東宋遠

丹波屋於妻像

淡粉
輕煙
佳麗
名

亂梳雲髻
下粧樓

容貌一華表

○ 丹波屋の妻

楚臺の夢ハ花の樓ゑ驚鳥驪山の契りハ
美里の雲を傷つ眺霄乃痛憤と相
乃氣まぐれきのふハきゑ乃一昔乃
偽へ古き屋の八ふ〻ふ世ハ儚き滅
釋ゞ身をゑ深だりとゆまるゑ妻が
ゑ〻つゑ〻まで再足を從ん

愛ニ公銭君崔ケ岡ノ幡ノ一ノ華表雪之下ノ
表通燕亭萱ヲ并ベ數多ノ白拍子遊子ノ
興ヲ採テ多銭ヨクノ商ヒ長袖ヨク舞フ
這個風流ヲ名づけ表神楽ト喚サレバ
美人羅帯長吏ニ南鐐一片ノ情ヲ畫ス
却倫かの八帥公清八今宵も寂てあへのてや
ぞまろ公事糸元姫るどくそ想へつま
らぬもど舟を油ふ絡る姫おせべ狂ひく
天麿堂稽猪牙ヒよ狼狽てあこ河て
るてんとを八ツ文ころ伊ろ〳〵伊ろ〳〵紙お場へ
ぢきぢ伊ろ猪ろ 長屋 アイ 特長屋へとんざ
つ文ぐ出ます蔓平名〳〵と謡ちしよ
めいりやもこのたちち稽暑の酒やア
第盤酒やといつく名代でございやと
八 伊そこ乃石ろきの角の肉ぞやよく
きるとうりくねるのアレ皆〳〵やア

ゑう燈所をさぎゑめせてうどいつ燈ゑ
きてる 源 とんぼきまきりこ新なゑんでる
燈ゑ人間ゑ新ゑんせ乃代ゑ地屋燈ゑ
燈屋声燈いとんでゑ行ゑ遠ゑ建ゑ
二行いえゑゑゑひ間でゑんゑゑよゑその
ゑゑゑ代新ゑん世代屋ゑ者清ゑきれいで
出ゑゑめゑゑゑんでゑんゑく燈
燈ゑ弱屋でゑぎいゑとゑいゑてい賑ゑきゑん

ぢんまゑゑるびすかうけゑん世ゑいきゑゑた
表神楽のゑ代新ゑゑよゑ屋ゑでゑあゑこいちへ
ゑ出ゑゑゑなんでゑゑこのゑ燈ゑゑゑゑるゑア
瓢簞ゑ筆ゑゑゑいつきゑめ 京 源ゑゑゑゑゑを
出ゑゑゑだけゑ出ゑゑるゑくきたせ 源 十二ゑゑと
早くきゑゑとんでゑ川沒ゑくゑ動ゑゑゑ坂
川川へ出ゑゑゑまゑつきゑゑゑゑる三ゑ沒ゑ乱
ゑゑゑ紙代へ出ゑゑゑ早ゑゑゑいゑ今ゑと

とくいつさ船沢あざア物そろしく鍋の
ふりやるやろうで婚作乃をナツ乃へ
のせこんざ茅ガこ行りますさが 瘡成
かきやアがつくうし投網町の出しの新沢
ん乃ゑうに首だうりかゝるまいく
ごちしるライ出さりくライつもる
んで盆根あの舳をそんくん稼へ
トいひるがこざやとこれ並して中へのゝとむけ島八二本稽
島のあやゆうがりりへさりたる本町のぎんざんの

日きのあろう坂へつけるるりゝ又南方の島へ物別ろう
たさこまこTのかうけるる是表へけくゝおなきあるり
八 どう せよるあがけそひくくるこのまべらくが
よもきのめまりつくるあつくこのるあをかゝ場をとこ
つろうみようろ石注びひよとこびか
さふの源 えまんてわつるやえやう△
注曰ひてゑあをつまくゝ茅やをけいるるにまいくうふ
ゑあをろくれるゆりうゑかりのるれどろハるるること
ちよきのろでようよ見ちゑあをかうするうの
るれバさすがうゑやどのとそんさきされバまづ客乃
いくうゆるれバ客いさきへけ茅やゝろをこのげよ
男ままこまべゝ遊所ふ極ぶ人の紙をこんるるいろくるる
ミテリ
おまくゆくうのうやどこまでる

はまてくゆんせゆくらひるおとり
さんやおつうさんふきうれるうあんと
せうはまてくふぎうどゆんじるる
そんるようひ氣ぐくはまるりのうへるト
ゆくい表へまづる角のまど戸やぐ二階の
繁ぎまよ臺顔の獻媚いそのうさ事
あうもゆのん樽を新き藝妓り空咲い
ヨやくと樂すうとかうんどうとうふ事

角の戸やハ花村の沿ふり

何うさいぐ宮のなぐきい何れハ床急
何う晒落有烟辞い何う嬉むも行うゆ事も
何る狀何る井れハ帝ハ廣ハ十二ヶ月の高樓
いづまも樂藉て入く完殺と賑うまえば
今青も扇素あが明くいうや香やを何ど
速海乃鬼う丹波やの見通へいづと通る
沒ぐ何ういそぐ
とうに見てある

獨ぐ

扇乃ちうん扇いう扇をさんおるをそだよ慶

そしてく二十八さんとうまきくんまよ
○ろうそくヤどうるくまとひまくら
八さんとうくきくまとまくんおとひまくまま
はりくさんのおいぐくなくさいりう
ぐっケまイ　とりこまちのげまなおとまくさんと拾てくう　小傍　八さん
おいなこいます　娘分　おつまさんのかをと
又ねくうちやアまイまんふいりまうの八
アノだくぐうもいけうこるいぐアはあの

新屋うくさくまくまくま

あくるいつもとうり汁を解ゆとおもてくるこ
いつもとおりにたなるおきゆくぐもうるいろ
く家園く板を買ゆくるもト咲くくくく

[illegible]

かりにゆきそれくらくかへるきる 世 いきまに

ト毋つまぐ出くいろ家間かりのかくにをはしするのごと

ちひめおこんや乗のすめくゆくゆくあるゆく

八 コウ毋ちくまんぐさらまへうら空しきを

するでる絵くうまぐあの足ぐ動ねく

外へ出くあるを後をたつやうるきの寄りよ

乃呼出り買くも絵くいるこんやくる事か

おいつる乗ぐ雪ぐまりとうてること

さぐと公行ろ治用事いつまくおひとを後ふ

なるんぐ毋ーファぐちっぷくなくるよ ト言ふ船に

毋を去まっくまり 源 なんぐ行くはのふんぎよ嗅ぐく 八

あげそとぐ野ぐうひのよトいふとろくあつまこんぐ

△そもその長い文車ぐ毋ーそに後我ろ何いきまりあり面に去川

ふたくひろの長いろ乗ぐうのぐ去ーハろこの世きれの後きき

去ろうのぐーうけこ毋ん紙とりちをへつ毋ぐり自ちりの

出いりいちくくくーそくれろんや 娘 毋つまさんとん

このるのあるふちくぐろーぐくんや

てへをおつまくこの 源 ぬすとをとりにきるとを

さらうがうせいふ欲ぐんのさうぜ新屋ぐく極
牛ぐりなぐくぬきるそうぐるぐたこ
ぐできるぬといおこうさ 馬ま 物ーひ源とんざのふ
よせるく ぐたつく 喉 かし極へおめいの門のきんばしを
出ーそ物くうるおーさ沢をいうくさ毎く
きねくほるてこというく霖るとときこう
極へよ 八 胡むひをうけらきる日ぐだうれ
つぐだぐまんつめうれのるひをぐぶくふへ

むりとぎうくいひ出をのぐ家岡ふうう貴ぐやの
極云清ぐこうう 馬 アイサ 極ーくさん サトをばよう 年よは
と正月のうまんつもうう 八 行ぐぐうう
馬 こうひよ 八 ぐうふきれくぬふへ 馬 十二
きれる切きうるときはぐひへいよう物へいへ
うるひくぬぐぬよ極ーくさんというぬまひ
さうぬっぷーもげのぐぬぬうはうぐふなうんよ
ううちやア欲ぐりで出ぬとのぐ 八 ベイ いま

ちゞまるゝ歌ろ 素 かんてうのこゝろイ 初ごと
をいひゐんゑ 八 やうゐ ひゝくいきやアゝれトつきさま
つま あるまじきまやはゝよなるゝ トなたこゝよるゐゐろ
ゐゝゝこゝそくすゑゝ よい家屋の女房て
たゝごゐあゝごとその 女の声 扨きまさんゝ つま 今いく
ようゐいゐくはよゝまを とすまぐ 待つゝく
ゐゝゝん 後ゝ ヨウヨウ 女 扨つまさんゝゝ 医
よゝゝゝまゝゝん 姫 アゝく 今ゝゝと
まこれゝゝゝ

[illegible]ふあすんくゐゆすぐ
[illegible]てきるのさト和[illegible]てきま
川さあうそをつき[illegible]れで
中ごゝ[illegible]ふを[illegible]房おこめくてもハ[illegible]祝へ
のさトいふ[illegible]小そう[illegible]ふを[illegible]
とのかそうとうかふ小女ろうつぐひくてしかふさを
おつてる[illegible]まこ一つおわうんなるとゐます[illegible]房おいろさんを
[illegible]きるこつをぐつぐト初舎の者めきんきこう
いろ[illegible]まこ[illegible]おいろさん玉ゐ[illegible]やうど中そ[illegible]
[illegible]くおたてさんおけひさんお仲さんおいて
ぬまりと[illegible]房おちろうさんなどハ祝へか[illegible]くま
アりまハ貴さにゐ[illegible]ゐるせいを[illegible]房[illegible]ふ
さんハらりィ抽けひさんといふふハ毎ろん
肉ぐ二三度生つさをのまぐ[illegible]いりこ[illegible]
祝へ〳〵お仲さんがよろろふぎよせいがなくて
ト山[illegible]房[illegible]ごさいきてまんさらくゐ[illegible]
[illegible]ひる[illegible]八[illegible]師[illegible]げんきを中[illegible]八
[illegible]でハさまりを二めいよ□洵是無情骨
肉成[illegible]呉越這[illegible]者仁庶[illegible]やとよびちやづ[illegible]

【ふ】いとう屋乃饅頭は近所でも知っど
だやアとう復いろぺいく意行くせ【男げいしゃ】お
はまさんこそいづぐアかぐもれくと寝ね云
の私ア毎ちいかこと云さ【はま】ヲヤいやよげい
ぶんのらしいモウよりにゆうおくまどん
おちやト【ふ】ぐちやづけちやどんの嫁さへ【くま】これへ
ろへ【ふ】ちやの茶わち移くとたんとうふくちとう
ぐんアをんてぐいく夫婦へ家ちげいの屋い

うるさうぐ【男げいしゃ】いろるよはたまさるうるき
お小ちよくぐ何ぐぶんにのるかぐへくうん
まうまうトうを一ちを一本二本三本四本五本
卦乃占ひ【はけ】【はけいしゃ】ふくさん分ひ物ひはは
【ふ】うるぐぐやアのやねへなんぐ猥ぶるの
くひのこりはけやそ大根と何舞へち
ちの移へ如ちる元をこんうにいんをとのへ
のこるあいよはあるあれハ猫いうけ乃砂と

いろのんこきとうめんふ切てゝせその大平ハ
なんごろこのげのこびるとうふの川ゑいろ 黒豆
あまさのろこいっこと湯鍋トうるとうりとそるまゝ湯鍋
これしハ松乃うまれ抜きあくみやアくらせ
すしいこんさ蕊芸老さぬうう吸まハしと
志ゆう只今めるこおるとふ元ふけまし
飯 くるり口下の鍋じやアおくまごんあれる
口をさうふせ くま うれひのふのれうこごも

いきる 茨ハ ゆんぐ又くる抜ーやの矛てる
まようひ茨さよ乃ふの乃ゾナ 陸 けけハーやあ
公いきのいこをゞたりうこ乃ゆほひ乃ゞそも
あるそうこさげそゆーふ 黒けハ ホンニ 志ゆうそこのふ
矛に志ゆ抜ハ江なよハうそんびとせうソし
かゞゞ穴ようーう 雑うを合 志 吟 乃ゆ元乃ふ乃
さそう月るゞバ十三やいんを抜ゆうーぬ
すハゞーのおなるゆハひぬきこるこのこて

合いつまるうまいしろ○こうさのさーしきよう
〜受けびきく 八 けるびくとハ出さわくのうこうす
るのぐ〜ト だけるさんきうきうきうきうきうきうおり寒入寒香
なーこのちや屋へ志ゝせるぐ
けへーやの法者ト五りいふ 寒秀 丹波屋へちよう川と
志ゝせざ 移へ 寒波 そうさトいふこうくどんぐ
まるうくきうり
女房 モト おまへさん丹波川まさんのおるこて
丹波屋へおいぐなるのじやアおさらまさん
へお仲さんから出うーんなるこをおつま

さんが門とめ〜くるーがおそろぐどうんうと
〜せゝーさのぐうとうまうとうとうとうとうとうとう
ゝ世さとうゝお仲さんがそんなるかのようを出さくれ
ろといひるせてさぐらうとさるを弱くおず
まーしがアノようとぬいこふんぐ一つおいのぐんちゃ
いつく丹波やへおり人んなるをうくやつてあんるん
たいまーー紫やどりこ抱きあくを引ゑとおも
いまとへ内ゝるすこは女丹波やゝも女が

そう様をもつて〳〵系りましたが見けりをいつ
のぎをまきんぢて〳〵ふとこのとる所を私
がとあく〳〵をまして〳〵よ　上行の小ねんつ〳〵ねんをいつ世
みれと寄りひとく〳〵ねてきくと　男ぢ義理と世の中のきもの八
行のこいひとねたるこがとんぐと　八　カウチ　とやひ下がり
とてーがやかどさくるをやまし〳〵ゐる丹波
屋を出てこれがもつ後〳〵ぐ家へ行のげりさが
酒のとがきもつ〳〵丹波やいきもつと呼て出る者来
きれもきまゝ此の内ぐお仲さんをまを出し
てもまつ〳〵ゐるつ〳〵やあ後〳〵あんな蔓へ大酒波の
どぶ〳〵ぢたいくもゐるつあ　俳諧大ろしらんをと
かうい出とろ〳〵ハこんあんなるく金蛙がこの人
大天狗小天狗が出ちまはもの中りこうで猿科の
ちうあをとこ元閻魔大王がつおんつみうをひき
はまつく天狗が沼の徒又かくがみうでもし
うあ性ひさつなすんぐうもこんうれぐちと
動き祝人ぢうぺのもむトやけ海みるりすのこんみあくの
とうんてもつろくもれぬゆ下

女房ハおつまふるんぐハとふ〳〵めくるひきてせあ伸さのこと図
て出し初今のさろつきすこ二人のけい〳〵やもうまハ表ろ〳〵床
絹り例の　女　ちゃと必をりてきそ
とさげ　びやうぶをまわし　ちんと　物ものせこうのそとい　ま

お伸さんおいてよ□　ねこのこうりの法ことしよハ藤へ高ま
ねこのかこ元ゆふく海のよがコろ　たろ〳〵ふれ色れど男ハとこへこてもせろ
ころく〳〵こんぐぶりるむうこ　ぬひろころくいたらが
きどりかまと七組やどゆく〳〵　ふつくりうるわどさひろせるむ空
しきせはきあ取りハ紙ととふまつりさ海がつうる友
三味せんとすぐひいのちげいーやナ四人おろめくふ海ふの男う
にるふげへーやのうこふすのやこうちゆくう相生ち向こ
ありやこるのりのまそ　げやこうまく　ヤヤ　おやいあひろ
チャンとうまうまう　ヤンヤリ

女房ハるのひうこハるひ　ひろこハるのひう傍ハるひろ

アハこ　ふ　ハよぎ落きくくちちまきをあこのう辻法ものとハふ
ぐおつまぐざーきを内てこあを　かくこ通ろ間こくらさる
かんーゆとおこ一合ものうけ高ものう　安ろ　抱てろうづろく　ふ

けつるハあをとこーらくろいまくーひきあくハご
てまろる　晩ばんごつをふ　ふきくーひトぞよろりもす
てころつくこ立ろつとおつまをこ　ゆばき考ろけ
んでこそもハふころこ高ろよくおつまハお伸ふさの
おちつさるのでくカをおろ　てもあくをおに　家り　つる　ふ
下の出場におろおをのんていこるぐ後ハぬこを

こさん伸のごく　ふ　なんごーけるハ　つま　どがけハを
りのろく　トぐんとごき　すあられ　ふ　けいら稲へでいこよ帝

あがるとこく（ドいひろうろく床の中へ入るとなる） つま アレサ 三ノ合羽を
こんるせいしよ 陽 上せへけいるハ つま アレサ ヲクモ
ぞまつそいよ（ト合羽をあらかうまくりたげあをてあらうと
九人まぐけよで ぞれとぐ死をあてくせばよおくさこぐい十人が
居るとものあり 陽 たるせいけいるハ用がたのるうく
つま 用がたのくハとまんるせくあ
陽 いうふよ つま いうふごうとも猪ほ申しな
とのまし やうあしひよりトたる紙やうをこんて
ひろく ふとんへたきこうつがをとんで
やうう 陽 なんこ 三代女ノ是でもかく家ノ小使
ん

ぞ用のうりあるひ（ぜんまぐつあうきやうじやア
家和（せうら）し移へだうぐ百堀（ほり）へでまんつこやうに
ぞまつくいまバうづが移へよもんバ先
乃き毒くが紙（そう）のうりの猛堀（たけきり）といふもあつ
けくしあるとあ事しまも考ろ床（とこ）を明（あけ）ぐろ氣ふ
くつ移へナニダ とやあ法いく病侵（ちんよう）寢
が出来さといつふたらでとんぐあくろう
さうだぐくしひろ衣物（きうの）のとぶ風でも

祝(ゆく)がかくとなくこのふとんまやァちんま
わうまくの乃かとだ[illegible]いつくみる山桃へ
出来色ひく陳笠(ちんうさ)やたりぬんこと[illegible]
ちつまるさいつまま事まぐちつくみる
とれも一年なぞんぬが抱とし絵くれ
うう抱さらんぬへ つま ファなぞとい
とのハ一年ぎりれとの夜うくれとう
かくしの中ぬ絵く 絵 何がどうしぬ

つぬ ちつとぞうう事事がわるかう
寝(ね)ませいなといくば 絵 いやぞ つぬ いや
ぐめいのう抱さ母くいさをのへ
あきるさうとそでも絵くるをいひ
ちふなさうんぐちつちがいやに
なんうせいたのうく(ヒイ) 絵 ゆうますひ
絵るとへ(トちつをおけ)(ちとまるゆく) けいやうぐく ちつと
きりなのけのあうさ文抱うけとちまう

ねつまきさんしのうへ
くるくるくるくるけいやこの
くすてせうふりくる
おちくさまくるくるう
つま 酒でものまんとてまくを
ぬくとくるる
くま ねずびうをくまくるくう
つま
ねくまどんこてぐぬとの
くま こんろとをひを
ぬてねつまきさんだァ
つま けをくさァあまれ
きろくりんどのくう ねきをんちよろ
とかんをしてきくくくくん
くま ヲヤ
あんどうくねきをんくがもくさまをくく

ねきるとろくくよいやるのおんぎをうの
くびどのうこんなをちやくんどうわの
あもあくふうムちくしうきどのうんぐ
トかんさいて二宮
つついくくるむ おくぐまぐかをぐをぐもまを
いのぐくぐいふはをらくぐ キイキくく
トロロくひるぐてうくくをうくくれ
かんをつけてきくくあひくくゆくく
つま 実
さんくくうちちアきをく流ふくまを
くよ
お大 けおおくくるるかもがるるこをてねうくぐ

さいこまうはまをるるまこと
ふくくこよひこりり庶こ
ちくくしるよ　つま　十二
ぬりりろく稲くうくおころくき幸サのこ
ろん稲くう　一世の主殺　モ　ア　ぐぐ川さてりと揃れさ
ぜまこのここくたなろさ　ト二歳　ヤア、
ぬろまさんそう紙をぬひてちを
すろんるすんろこおい一ろ〈形のまひさん
のまうでがうせいろるのれでまろ

うぜここくせやういろのんぐせ　山本屋もとろの稲こうぐつま
くこまそろうんぐろれぐこ家ま　ぐよくむぐ斗
いり川くく庶でい稲くくちまおこ〈ろよきまろ　つま
ちおそきん抜ます〈じやアるひよ　ト加　おいの
こいざアまんざくくじやア稲〈　ト十二のまく庶を
ひぐう出ろ　大　アレサ稲くねるせくトけおまへ
酒こいふと耳ぐろるひよて生き　ト加　この
ぬぐうい又抜まぐおとをはきをくきこ
ようそういろそきとんやあざやろる

そんぢせるまげより
まるぐーとつよ
わそ抜のそふ
かくだらや行く
ちつ毛うぐ何ぶん
るかぐらぐレどと
ふあぎとう抜ろし
行くぐことすまや

大 あきれらア 赤 おつまきんの抜りひ
ざーとへのうとひのまぐいふいんぐる
大 ぬけ耳ぐ 赤 ツテチントきをそさと
だらげきんくねるなる行く 大 京
是でも抜く行く 赤 きく 前さこんやおそ
行ーくいををいつふる抜まく乃
やうふそつつとひまをいつすの
ハ抜きをくぐとんぬりハ行くといつ

さらそんをうてたゝ田ごとをうつて居る
うとゝいふまきもたゞ〳〵る【ち】ゆまま
さんをうちぐつレ男とゝつのんぐうう
とゝまいごさけんぐいさごきぐちう目乃
ゆゝしいうが出すをゆうんでお大
せんせの先生がつまてくうぎくれうゝいき
うとゝとんぐ弟ちやんゝ今ゆわゝ【大】ゆをい
きゝゆわゝとゝけゝうとんぐうら

きんひきぐうちいふけいつゝろいぐうら
【加】そういつてゝゆをつまさんの心ゝき
ゆやゝゆれさよゆあゝ芸げいのんいき
ゆうゝゆゝ初ゝぐらゝゝ行ゆ【つま】とゝ
ぐうちまゝゝくゝとぐりやすよ【ち】ゆゝら
まゝゝぐきゝとりやいよい【つま】地は
を出ゆゝね【大】きゆゝくゝんゝうんゆ
ゝゆゝいゝとんゝをいつてゝとゝを

あんねんうめんぶ　ぞうしくうのくてい
[赤] ヨウト　せうちゅうのことをすぐさそ　あんどうをうきさてる [大] 今
でのうれうてくうめ　梅へハ〳〵〳〵 [つま] ヲホ〳〵〳〵
[赤] 山ゑ　ゆうてくらやア　豆ぞうをかいう千す
ゆうてむせうれうとう　ふうなんぞうり
つまへ　梅へう　ヨウ　ぞうくぐるくと　きようくうくうれん等 [大] モウ
ゆうぷんはうとう　しくけの　ゆうり　山千男うは
ねうへのこうさうの　ふようとすいるおうへ

ぜんてい　ゆうまうぐつ　ゆるうるかい　うとうち
らうこれでも　ちんいう　ゆうひうぐ　うくうれんをる
[赤] 十二　ちんぐゆうう　ぞうねつぷ　ちうつさ
さいまいも　ぞうア　いうあいう [大] おゆ
へぞうう　ちも　ゆうつさぐひう　油揚の
ゆうれまんつすぐ　ぞうア　梅へよ [赤] あうア
カウウ　ゆうこうア　ゆうこうう　園を　梅
乃　樗　のぞうア　栗屋ぐく　梅ぞりの

朝茶(ちゃ)まいてくうゝ肉へけいるゝと
てうど浮(うか)いゝうゝむきこ葱の白ろつゝみが
ゝるゝ間ゝらゞぬうゝ水を煮(に)だんくいくゝと
り横町の豆腐屋がくるゝこゝ文が葱(ねぎ)
を買(か)いくゝかゝいまをくゝた佛(ほとけ)が
吸きれいゞうゝちんぷとゝゝくゝ物
りのうゝ煮(に)とうがゝとゝ切んすぎりか
ら汁をこゝちゝの味(あじ)をおくゝ

朝湯(あさゆ)へいろゝもんゝ入うゝ煮(に)ほれをいち
義(ぎ)うゝかゝいゝゝとゝだ(ナントイウカ)いゝくゝもや
まるの【大】はんゞのゝ世よゝ毛(け)まるゝんゝ
なよみゝゝとう【赤】ソウさウンウよゝくゝ
せうちゝ法(ほう)ゝさんゝ入(はい)ゝ毛(け)まるゝ法に入
ゝ毛ゝんゞゝト法ゝを法ゝさんコレサ教きて
のゝ法ゝ寝(ね)てだうゝ女(おんな)ゝ夢ゝ入ゝ森(ね)
釈迦(しゃか)さゝ毛四月八日ハタアけゞゞゞいす

ぜ 孫 やうはひ法ぜんぜめよりく寝くゐる
とのをあこ志やうんつる 大 モシ孫〳〵さんと
やちやう 孫 ちやこんくちでめ孫〳〵 つま よ
しる夜ぬけさ孫けふ 孫 いくいだぐうめ
つま それなだこそうづいるく 孫 ねこぐうづ
ことさ食こ つま だこぐにめこくなりつる
あとつきうと志ゆう 大 潰の氣でものこ
なこんなつぐ つま こちやう孫さんのまに

氣のこれ孫い抜きゆくいないこひやすよ
なんぞこいつこそう思ちうで表孫いくと
いひみたるぐなんぐこいぐゆうみりん
ぐこくそんるまいぢりていりんう志ん
大 ちこ中のふつさうとくある事さ つま
ようの孫くさんいどくうなぐこぐでき
なすんこんぐよ大師さ食とこんるゆうよ
をこいこ中たうれるこそこいつこんつさ

こちやあまでもこうさホンニふかく
さんまやんまをとぐまそつをそつせさ
アたつもたつもたつもうちやすのさトちやの見ようけ
後ようかうするのさの一ちよ大きよせちち
かくこうかよこうに後このゆうにぐちやとろう 深
まりへまつさ後をつつせ後へゆうにすれば
つく 赤 かつさハぎ乃夜ふききゆくトまつぐ
ろるまつへでうちも寄友 大 ヨヤぐ 初 ろうちたつをよこぐをな
さんろう 赤 をよぎのうやりくりなんつ

声ろもらよ 深 とんぐてこぐまものをつま
つきこ床へ入つくねうくん後へ 大 ホンニ
母ぐやはぐこぐせいちやうオアおつんさん
床へ母へつろよトちやもがかつをはまんぐむち
もよの一つを立て屋風へうみろぐ つま きうつろ帯をしれな
せへつるドレ寝ねつく母つぐくとひくにのぎゆうト
帯をこぐう出へつろう長三八よぐうゆ仇ぐろイ 深 あぐる帯
するまゆのろゆサ つま ちやまの出るゆうにろう

ちやうとういく極へ丹大さんちまと後に 大
丹めへ氣ゑうが乃とへさきうでさんぐ声がうひ
よ つま ちへと丹やうちゆーふごぜいせうにて
いへこんやの世うよういつぐぜんいうのいよ
うけてすぐ向ふよ寝くいるへくへ
ぬのようにうぐこと大きゑみあぐでいさむ 泳 こんるいに累
言をせうとこへつさがこんぐだせう正月の
ゑ物の金いこんやゑ面へくぜ丹へんぬ
ぐちやう大根へひへ一ゑよ金をにゑ丹ゑく

はきへく丹くよ つま 泳へさんへとこいこの
丁物の世うに丹ゑ庶へ出ゑぐ考へ考ぐゑ
いやぐへくなへ移へようをいへへ年
雪をぬいへ素へよなへいへ考へふ湯
泊へいきへこのぐぜへすゑ舟有よかこへへく
といひなせへとがとしーや生ゑのおへこさん
へ考まへく絵戸へ出ゑさへ移へ世うにゑへ
どうせうとこへへへこへへ昔ゑにゑり

やすいのそかう母つくるさぬ母うに稼て
だうりのもひやうぐさよアレサ母とかうゆんな
せいと 泳 法めてたいぼでぜんぶきの亀
ぐ ま にくせのいとぬーとうくーとそのあーうえれべ
どちらむいくもよのぎこの袖チハトおつうあて
こんるせいー 泳 かうあーう稼くう つま どう
こも母まくにまうせてこかくぐうりめとを
きふたるせいー ネトこを すまをけさふぐ 浅

たくひやーうあよ 泳 なべさこを湯くうぐ
てくのんぐきやーしい稼くう つま おくひはごのふ
ヨクモぐまつてく 嗚呼 可憐 懐中 炯
娜 袖中 藏 ちのうまちのうぬーこ こ 文
○隔蓬廉偷襲海南香 とうくこの八帝くぐこくく浅
いいうくに糸をのんぐこたきこ
ちくもけて稼くおるお仲を向りさます 八 モシ モシお仲さん
お稼むうーふぐちんと おきくくん稼くさる
ぐこのるうう 仲 ナニ とちくく稼やーやせん

胃(よい)うゝ抱めくのんいつきをとんぐくら毋ゝ
のさ抱つまさんも流(ながゝ)ゝ弟つ[illegible]て
ゝまるのゝとうあせ(すゝ)抱めくも下垂りゝく
祖(ゆう)ゆうすゆりとゝこ(ひつ)ゝこ(ぐ)出るゝりぐふ
やア抱めくをとうぐ産(ぐゝ)ゝくて出れる
とのうく産つゝとゝもはんざでなく
出てゝのさわゝくかつゝふ来いあ所もい
きうゝぐくゝなつゝゝ羅(げい)ゝ春の罠ゝと

でゝ産ゝさるゝんぐそれゝとゝふゝる
さゝ乳かゝうゝまゝひとゝもゝやゝ毛ゝうゝぐ
あのゝに氣ぐのゝこゝかくゝぬゝるのゝぐやア
抱をゝ抱くゝ祖(ゆう)ゝこ川ゝと氣ぐつゝき毋ゝゝ
うゝゝ代の産ぐく孫くゝゝ毋ゝゝのさゝりやア
くゝいゝ来をゝたゝ抱帯ゝぐ代のゝんぐ
うゝふ抱きゝ毋くをゝとゝれゝるゝもいくゝも
ぐぜ(すぐ)抱きゝ毋くゝ一人(ぐホ三)とゝくぐ出くゝ

りんぐ稲へうぐたまてとこんざくまーひ
りのさを家一番高間をする無つまさん
乃無きまくとう〔つ〕てこ〔ひ〕さとひてくうを
まふ〔ア〕まふ〔ま〕ふますりもちもいりこさい
ぐまうるりんぐ及びお稲へとたうう青
ひさぐぬぐ今ちうう氣をづうくうりや
しるぬーるこるなく丹波やうけうるさり
やア何の手るなーさてうぐんるすてハ

無まんでも稲へたううちじやア稲へくをれざ
ううれれく無つまさんへけいつてやんな
せハテえ来にまさるううまなーたやア稲
う稲へ四ことを来る様ざんぷやうもいう稲へ
お仲さんといふ名をんこんざのサ 仲 名をうく
ゆうんのれぐうるさのうくこうちうを向て
寝やをうまよト寝りを向て石地蔵のごーハうえハお仲ハ
おつまとうられるうる向今さ〔ま〕ぐ〔れ〕ハ〔ま〕をつけるバうるつけてハ
砕ぐさあくつまるぬりのにるる

正是爲思佳偶

情如火素盡枯腸夜不眠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はくるべかりまてこせうことをどうかとうひる
つま お伸さんと何も是ともなうて
事ありつがアノうのうあるとうて朝迄
みてくびいしくさりくみ組まんで遊
あしたなせくしをうもやアあとで
はがやうあしくるくこての内をかつ
うつうく出さんだくはいりくこんを
ダアんかりをを抜くしあとうくを

義なしなせくしぬすこをまるうり
ゆをとりくよ 八 ソリロアをうとうこの内へ
和尚をうりあゆをへうすことまんつる
とんざ つま 今いこてみこせくす徒
入くおきやすよト腹をうるる 八 ざる
みをくるはくが今をみいくを行くへトはめる
つま 子をうるざるうがひうをを四く
い抜うどのくせよむうるひとけす

すこしのだうらくしいわどいてくしゆく
うのうぬ今 [宴] かういつまでもうまをうァ
くまの内のゝ三こ度くゝぬゝんで
それうゝ正月まぢくきうさゝぬゝう
みして正月志すいの時うんうゝふれ
べくれ乃業者しこざいよなすべ
むづらうひやうゝ行うゝ何まで
ぢ合してもきゆゝを夕ァの泊て

なちやみしてもまひうせこゝあり」
ゝまだうゝ氣をとませんや
世ゝまたゝくゝまんなせゝ
る正月乃仕業も毎月で二日
ゝいひやゝやうぐ」日ぐゝのうどぜゝ
すくあやゝ乃法をとぐこまる業者
の長ゝうをゝ乃行ゝうゝ行ゝうゝ
合してゝ紙を出ゝをとうゝとれゝ

うゑのこゝろにはまさる今くも秋くれかくれん
なせとゝろあく無まさのうゑを法ぎさせ
まひとゝろいくらいまゝかつさんの病
意をとんさん人の法華もこゝろをれく
ゝ色まさなんの事も無りゝにだ
ぎまつてんやどゝ今がりひにつまり
ゝとゝはらごゝろく無めゝとまさ
いつまゝとつまゝえんがしく

はゝそゝかゝつゝ
とくゝひぐゝ
死ゝぐぐひ
ちゝゝゝゝ
無まのうゑのつゝ
さゝぐぐまつゝ
とうゝ（ウタ）ゝまゝ
まゝくゝのまうゑ

うすうのつゝひ
ゝなざいゝそ
ゝまゝゝゝグゝを
れのゝゝ何る無ゝうゑ
ゝゝゝゝゝのゝに
ゝく無りつくねうゑ
ゝゝゝ男のゝ
なゝんくゝゝゝんよ

何のいとひもせぬやどけ髪八ホンニおれ
がゆうるめにすくのせいよゆうやこ
ゑだんうゑでたるまいさんごんをいを
としてくまるくひめのこいまこハ今死
でもつすれハせぬくむりーのゆうよ
蔵著ゑの男のうくるうまの内れを
たてし正月まるまんぱゆておつまえ
なまひるくさいたくゑの法るゆう

こんるのきがんまいゆうよするゆハ
きつくふゆまで何よ貸てよ今をいく
ゆつハ小きまつてくすんざ つま 金の髪
ゑハ乃まへくそうくつゑ是てるのの
うゑ男のひざに 那 ゆくくこれやおろそや
んをなのむ弾きんエヤン おひざのハまん猛 ジヤンくく

冊畢

○附言

夫人ノ處女ニ花鳥ノ便ヲ通シ他婦ニ密契スルノ類皆吾儒一所謂不礼不義釈氏モ是ヲ邪淫トスコレラハ娼家ニ遊ヒ青樓ニ入者モ大綱ヲ破ラサレバカヘリテ優リ順淫トイフヘシ那一回有詩為証

江巽好景本無多
只有晩風殘月下

跋　借宿剛主人

管仲女閭七百妓戸以妃つゝ孟子五日數定を卑れ共酔ことの八酒乃怒りたのゝ欲ゝ程よく娯ゝ困まゝ渡船ゝ

新書間艶夾を聞よ題び
識て溺ざるハ君子蕭洒也
モウ曼切くと云ても不止ず
登樓の情ふるを細膩漢ハ
其、惟管仲乎

u5459